

滝川市長 前田 康吉 様

滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書（案）

令和7年 月 日

滝川市環境市民委員会

1 趣旨

この評価報告書及び提言書は、滝川市環境基本条例第 29 条に基づき、滝川市環境市民委員会（以下「委員会」という。）として調整した評価及び提言などについて、滝川市長に対して年に一度、提出するものである。

なお、ここで評価対象とするのは前年度（令和 6 年度）の取組に対する評価を含め、計画期間内での施策などの進捗状況についてである。

2 令和 6 年度までの取組に関する評価について

令和 6 年度までの取組について、別添「評価シート」のとおりとし、特に次の点について評価する。

1) 環境にやさしく資源を有効に活用する循環型社会を目指すまち

前年度と比較して、滝川市のリサイクル率は横ばいだが、1 日・1 人当たりのごみの排出量は減少している。これは人口の減少や容器の材質変更、容器そのものの軽量化が要因にあると推測される。また、市職員によるごみ分別出前講座について参加した市民から「長年住んでいたが新たに分別を知った」という声もあることから、講座に参加することによって、分別方法の再認識ができていることがわかる。市民のリサイクル意識向上に努めたことを評価する。

2) エネルギーを大切にし、環境への負荷の少ないまち

町内会等が維持管理する街路灯について、水銀灯やナトリウム灯から消費電力の少ない LED 灯への切替に際し、補助金制度を設け、切替の推進を継続していることを評価する。

3) 身近な自然と触れ合うことで、その大切さや素晴らしさを実感できるまち

エコネット登録団体の活動により、子供たちが自然と触れ合える機会があることを評価するが、身近な自然との触れ合いに関するイベント情報を得る機会が少ないと感じる。

また、農業体験の実施は参加する子ども達の食に対する考え方の基を作る大切な経験となり、地産地消や食育へと広がっていくことから、取り組まれたことを評価する。

4) みんなが学び、共有することによる環境保全の環が広がるまち

環境市民大会について、令和 6 年度から滝川市で始まった市民活動である「たきかわプログラミング」について講演を行うことで、環境問題に取り組むために簡単にできる身近な例を学ぶことができたことを評価する。

また、環境学習リーダーについては、高校生が保育園児との交流を通してコミュニケーション能力を育成することができ、その後の「環境学習リーダーAdvance」へ環境教育の充実に繋げていることを評価する。

3 今後の取組に向けた提言について

今後に向けたあるべき姿や方向性、検討を要望する事項については、次の点について提言する。

1) 環境にやさしく資源を有効に活用する循環型社会を目指すまち

市職員によるごみ分別出前講座について、繰り返し受講することで新しい知識を身につけ、ごみ分別の理解を深めることができることから、既に開催した地域や町内会でも、再度、開催の機会を設けていただきたい。

2) エネルギーを大切にし、環境への負荷の少ないまち

滝川市のエネルギーについて、分別された生ごみや下水道汚泥から発生するメタンガス、可燃ごみの焼却による熱を利用した発電を行っていることはわかるが、家庭から集めた資源ごみや廃油・古着等について、どのように活用されているかがわからないため、そのことを知る講座や有効活用されていることのアピールをしていただきたい。

3) 身近な自然と触れ合うことで、その大切さや素晴らしさを実感できるまち

身近な自然と触れ合う機会を創出するためにも、イベントや活動の情報発信を推進していくことを望む。

また、農業体験の実施について、受け入れ先の農家に負担がかかる心配があるが、農業体験は児童生徒にとって貴重な体験となることは間違いないので、関係機関団体と連携して活動を継続していただきたい。

4) みんなが学び、共有することによる環境保全の環が広がるまち

たきかわエコネットに登録されている団体の活動や市職員が行っている出前講座などは、環境コミュニティを構築する上で有効的ではあるが、あまり知られていない活動もある。活動に参加することで環境コミュニティを構築することだけでなく、気づきを得ることもできることから、いろいろな方に知ってもらえるような工夫や情報発信を行うように努めていただきたい。

委員会としては、今後、滝川市が環境施策を展開していく中で、以上の各事項について十分に留意し取進めるよう要望し、報告及び提言する。

令和7年 月 日

滝川市環境市民委員会 委員長 高瀬 慎二郎